

美術館と環境史

— 時と場所をめぐる対話

加藤耕一
建築史家

Koichi Kato

Museums and Environmental History

申し込みは
こちら



2025年12月3日[水]
18時—20時

司会進行

坂野正則

西洋史家

Grégory Quenet

グレゴリ・ケネット
環境史家

参加無料
同時通訳付

時がつくる美術館を、
環境のまなざしで見つめ直す

Reiko Tsubaki

椿玲子
美術館キュレーター

東京大学駒場キャンパス
21KOMCEE WEST レクチャーホール
東京都目黒区駒場3丁目8-1

主催 上智大学学術研究特別推進費「歴史的ヨーロッパの宗教
モニュメントに関するアーカイブズの構築と世界遺産
オーセンティシティの再考」(研究代表者:坂野正則)
共催 東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻
大石和欣研究室
後援 フランス大使館/アンスティチュ・フランセ
助成 公益財団法人 日仏会館

SOPHIA U



タイムテーブル

18:00—18:05

開会の挨拶

18:05—18:35

ショートレクチャー-----グレゴリ・ケネット

18:35—18:50

キュレーターからのリプライ-----椿玲子

18:50—19:05

建築史家からのリプライ-----加藤耕一

19:05—19:20

休憩

19:20—19:50

鼎談 〔進行〕坂野正則

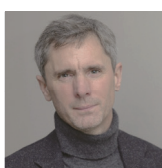
19:55

閉会の挨拶

グレゴリ・ケネット

ヴェルサイユ・
サン＝カンタン＝アン＝イヴリヌ大学 教授

研究分野は、近世フランスの環境史・自然史、環境人文学分野での歴史学の再検討を実践。2012年より、ヴェルサイユ・サン＝カンタン＝アン＝イヴリヌ大学にて、フランス初の環境史講座の教授就任（現在に至る）。2022年から5年間、フランス大学研究院 (Institut Universitaire de France) に所属。2024年から、フランス・カトリック系研究機関「コレージュ・ド・ベルナルダン」Collège de Bernardinsにて、環境人文学研究部門で共同ディレクター。代表的な著作として、*Versailles, une histoire naturelle* (『ヴェルサイユの自然史』)、*Paris: éditions La Découverte, 2015. L'Écologie au musée: Un après-midi au Louvre* (『美術館の生態学：ルーヴル美術館のある午後』)、*Paris: Edition Macula, 2024. Histoire de la pensée écologique* (『エコロジー思想の歴史』)、Paris:PUF, 2025。



椿玲子

森美術館キュレーター

京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程、パリ第I大学哲学科現代美術批評修士課程修了後、2002年より森美術館に所属し、同館で「医学と芸術」(2010)、「宇宙と芸術」(2016)、「レアンドロ・エルリッヒ」(2017)、「六本木クロッシング2019」(2019)、「私たちのエコロジー」(2023-2024)、「ルイズ・ブルジョワ」(2024-2025)「藤本杜介の建築」(2025)などを企画。成安造形大学客員教授 (2013-2014)、青山学院大学非常勤講師 (2019-2023) の他、執筆・講演も行う。



加藤耕一

東京大学大学院工学系研究科
建築学専攻 教授

専門分野は西洋建築史。東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。パリ第IV大学客員研究員、近畿大学講師、東京大学准教授を経て、2018年より東京大学教授。主な著書に『「幽霊屋敷」の文化史』(講談社、2009年)、『ゴシック様式成立史論』(中央公論美術出版、2012年)、『時がつくる建築』(東京大学出版会、2017年)。受賞にサントリー学芸賞(芸術・文学)、日本建築学会賞(論文)、建築史学会賞など。最近の業績として、加藤耕一・坂牛卓・権藤智之・長谷川香編『新建築 建築100年』を上梓した。



坂野正則

〔司会進行〕
上智大学文学部史学科教授

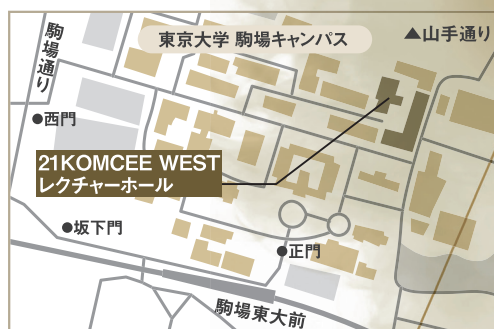
専門分野はフランス近世史・社会文化史・都市空間論。パリ第IV大学DEA課程、東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了。武蔵大学講師・准教授、上智大学准教授を経て、2020年より上智大学教授。文化＝空間構造論を軸に、都市史研究の学際的活動に携わる。主な編著書に『パリ・ノートルダム大聖堂の伝統と再生 歴史・信仰・空間から考える』(勉誠出版、2021年)。



アクセス

東京大学駒場キャンパス 21KOMCEE WEST レクチャーホール

東京都目黒区駒場3丁目8-1



美術館は、作品を守り伝える場所であると同時に、その建物や展示品の移動、展示空間のあり方を通して「環境」と深く結びついています。今回の企画では、作品が元の場所から美術館に移されることの意味や、絵画や展示に表れる「風景」や「自然」の見方の変化、美術館建築そのものが抱える環境への影響、新たな芸術活動が胎動する可能性といったテーマを取り上げます。歴史研究者、美術館キュレーター、建築史家による対話を通じて、美術館と環境をつなぐ新しい視点を探ります。

Museums and Environmental History

美術館と環境史——時と場所をめぐる対話